

私達が暮らす日本は、精神科の入院病床数が世界でトップであるという事実をご存じの方は、どのくらいいらっしゃるでしょうか？ 全世界の20%の精神科病床を、日本が占めているのです。

今回は、精神障がい者支援の現状と課題、取り組みについてお伝えします。

### 市における精神障がい者数の現状

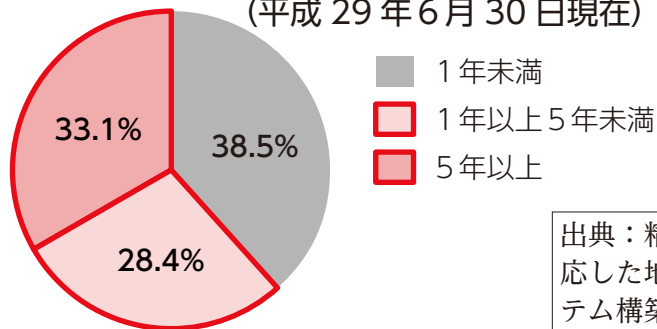
精神障がい者とは、精神疾患やその後遺症によって、日常生活に支障をきたしている状態にある方です。疾患の症状や後遺症は、人によって様々で、適切な治療や福祉サービス等のサポートを活用しながら、地域で暮らしている方もたくさんいらっしゃいます。一方で、本人が苦しんでいても、周囲からは分かりにくいという特徴があります。市には、今年4月現在で精神障がい者保健福祉手帳の所持者が364人（人口の0.6%）、精神科に通院し医療費の助成を受けている方が573人（人口の0.96%）います。

### 入院医療中心から地域生活中心へ

日本における精神疾患の治療は、長らく入院治療が中心でした。しかし、治療薬の発展などにより近年の新規患者の入院期間は短縮化傾向にあり、約9割の新規入院患者が1年以内に退院しています。これに伴い、精神科病院の病床数は減少傾向にあります。依然として1年以上の長期の入院患者は20万人を超えています。

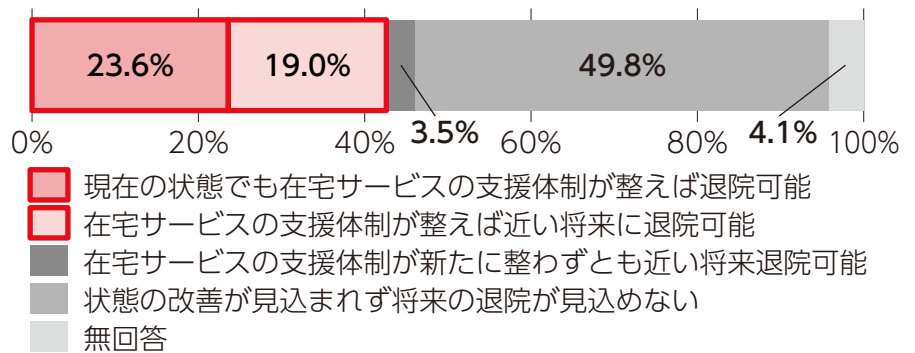
精神障がい者の地域生活を支援するには、障がいの有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができる地域づくりを進めていく必要があります。そのためには、地域住民の協力を得ながら、差別や偏見のない、あらゆる人が共生できる社会を構築していくことが重要です。

精神病床における在院期間の割合  
(平成29年6月30日現在)



出典：精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き

精神療養病棟に入院する患者の退院の見通し



### 自分らしい暮らしができる地域へ

国は、精神障がい者が地域の一員として安心して自分らしく暮らすことができることを目的とした「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」を基本理念として掲げました。これは、医療、障がい福祉・介護、住まい、就労、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域を目指すものです。

市では、この理念に基づき、地域自立支援協議会で検討した結果、精神障がい者地域支援ワーキンググループ53が発足しました。

この53という数字は、1年以上精神科病院に入院している市民の人数です。今後、本市に暮らす精神障がい者が、自分らしい生活ができる地域にしていこうという想いからネーミングされました。

### ワーキンググループ53の動向

これまで2回の会議が開催され、ワーキンググループ設置目的の共有や、長期入院をしている53人のうち、30の方が本市と小山市の病院に入院していること、43年間入院生活をしている方がいることなど、市の実情について情報交換が行われました。

国の事業調査では、支援体制が整えば退院が可能な方が4割以上いることもわかっており、入院生活の長さに関わらず、53の方々があるどのような背景で入院しているのかを理解し、精神障がい者にとって、自分らしい生活ができる地域を目指し、必要な支援体制の整備をすすめるよう協議していきます。